

平成24年度予算について

経理部経理課

平成24年度予算及び事業計画は、去る3月29日(木)の学園理事会及び評議員会において承認されましたので、その概要をお知らせします。

なお、平成23年度の収支見込みは、3病院を中心とした収支改善の努力により、前年度に引き続き帰属収支差額ベースで黒字となる見通しです。具体的には、帰属収入の約4.5% (帰属収支差額比率) の約33億円の黒字が見込まれています。

平成24年度は、2年に1度の診療報酬改定の年にあたり、今回の改定では診療報酬全体で0.004%とわずかな引き上げに留まり、プラス改定とはいうものの、実質的には据え置きの形となりました。これは収入の約85%を医療収入が占めている本学においては、対応次第では財政基盤を大きく揺るがす問題であるため、その影響と対策を早急に検討する必要があります。よって、平成23年度収支見込みが黒字だからといって安心できる状況にないことをご理解いただきたいと思います。

また、今年度は、平成25年度の創立40周年を目前にし、周年記念事業に伴う教育・医療棟(仮称)建設を始めとした諸事業や教職員・学生寮建設等の大型事業も控えております。

この様な背景を踏まえ、平成24年度予算編成に当たっては、黒字確保を前提に、40周年記念事業を始めとする大型事業を成功させるべく無駄な経費の削減に努めるとともに、将来的な大学・病院の建替えも視野に入れた積立も確保する等、攻めと守りのバランスのとれた予算としました。

予算のポイント、事業計画概要及び消費収支予算・資金収支予算は次の通りです。

■ 予算のポイント

平成24年度予算は、教育・研究・診療の充実とそれを支える財政基盤の確立を基本とし、限りある財源を効率的に配分することを課題として、各分野にバランスのとれた予算配分となるよう配慮しました。

各会計単位の重点施策は次のとおりです。

1) 医科大学関連

(1) 医学部定員

文部科学省は、医師不足に対応するため医学部の定員増を認めることとなり、これを受け平成24年度は入学定員を118名(栃木県地域枠として3名増)で計上しました。

この入学定員増は、国が都道府県における医療課題の解決を図るために策定した地域医療再生計画の一環により図られたものであり、この栃木県地域枠で本学に入学する学生は、栃木県から医師修学資金の貸与を受けることができ、また、卒業後は栃木県職員として県内の公的機関等で一定期間医療に従事することとなります。

(2) 学務関係

医学部では、医学教育モデル・コア・カリキュラムを基本としたカリキュラム構成となっており、効果的な教育体制を構築するために関係経費を計上しました。主な経費としては、一般的な経費以外に早期体験実習、学生の海外研修、共通試験CBT・OSCEに係る事項や医師国家試験対策としてのビデオ学習の援助、短期集中合宿の開催な

どがあります。

(3) キャンパスの環境の整備

従来から教育環境の改善としてカリキュラムや講義・実習方法などのソフト面の改善とともに、講義・実習室や周辺環境などのハード面の改修に対し鋭意取り組んでいます。平成24年度においては、学生に対する良質なアメニティの提供をより推進するため、解剖学実習室の改修工事、学生食堂棟トイレ、コンピューター室等の改修工事を盛り込むこととしました。学生のニーズや時代のニーズに即した多様な教育に対応できる環境を整えるべく総額3億44百万円を計上しました。

また、学生・教職員駐車場の整備拡張を行うため、整備関係予算として2億円を計上しました。

(4) 看護師対策

全国的な看護師不足が広がる中、本学においても看護師確保が困難な状況であり、深刻な問題となっています。平成24年度においては、これまで以上に全学を挙げて積極的に募集活動を行い、大学病院・日光医療センターの7対1看護体制の維持、越谷病院に7対1看護体制を導入し、患者サービスの維持・向上を図ることとしました。

(5) 教職員・学生寮の環境の整備

平成24年に教職員・学生の環境整備充実のため教職員寮・学生寮を3年次計画で建設することと

しました。

平成24年度建設費用として24億14百万円を予算計上しました。

(6)看護専門学校(三郷市)新設準備

全国的な看護師不足が広がる中、各病院の7対1看護体制を維持するために、看護師の確保を目的として、三郷市に看護専門学校を新設することとし、その準備費用として3億3百万円を予算計上しました。

(7)創立40周年記念事業

創立40周年記念事業として、寄付募金趣意書・校歌製作等及び「教育・医療棟(仮称)」建設【大学・大学病院：約48億円】のうち平成24年度支出分として校歌製作等58百万円、教育・医療棟(仮称)の建設費用21億20百万円の総額21億78百万円を予算計上しました。

2) 大学病院関連

(1)診療報酬改定

診療報酬は、医師の技術料にあたる「本体部分」と薬の公定価格である「薬価・材料価格」で構成されています。平成24年度の診療報酬改定では、「本体部分」が1.379%引き上げとなり、「薬価・材料価格」が市場実勢価格に基づき1.375%の引き下げとなった結果、診療報酬全体で0.004%のわずかな引き上げとなりました。

これは、10年ぶりに全体で増額改定となった前回(平成22年度)に続くプラス改定になるとはいえ、実質的には据え置きとなった形であります。この決定を受けて平成24年度予算編成においては、医療の安全・質の確保を継続しつつ、改定が及ぼす影響とその対応策を予算にどう反映させていくかが最大のポイントとなりました。

当院ではこれまで通り7対1看護体制を継続しつつ、入院在院日数を短縮し高稼働率を維持することにより医療収入の増収を図る一方、支出面では医療経費を圧縮させ安定した収益確保を図る予算編成としました。

(2)診療体制の整備(電子カルテシステムおよび放射線部門システムの更新)

病院統合医療情報システム(HIS)の基幹システムである電子カルテシステムは、平成17年9月にオーダリングパッケージより電子カルテ対応型パッケージへと変更されたシステムであり、平成22年9月にリース契約が終了し、現在は再々リー

スにより稼働しています。サーバー機器類の老朽化と蓄積されたデータの肥大化などにより更新の必要があることから、更新経費16億円(リース契約)のうち、平成24年度支払額1億60百万円を計上しました。

なお、本更新により機能範囲を更に拡張し、医療安全の向上を目的とする患者認証システムや関連医療機関との病病連携・病診連携システムなどの新機能を組み込むこととしています。

また、上記システムとの連携及び安定稼働の観点から、同時期の更新が必要である放射線部門システム(RIS)(9年経過)の、更新経費2億10百万円(リース契約)のうち、平成24年度支払額21百万円を計上しました。

(3)災害拠点病院医療体制整備

栃木県の地域医療再生計画における災害医療対策として、東日本大震災の教訓等を踏まえ、災害医療体制の充実強化を図る目的で、施設・設備の整備を推進する災害拠点病院医療体制支援事業が計画されています。

上記事業に伴い災害拠点病院である当院では、災害発生時に適切かつ安全な医療が提供できるよう、設備の整備費用として医療機器等の購入経費18百万円を計上しました。

また、災害派遣医療チーム(DMAT)の体制整備に必要な災害派遣用備品および災害派遣車輛の購入経費として18百万円を計上しました。なお、これらの経費は、災害拠点病院医療体制支援事業の補助対象(県基金2/3、国庫補助1/3)となるため、補助金収入として同額(36百万円)を併せて計上しています。

(4)栃木県ドクターヘリ事業

栃木県ドクターヘリ事業は、平成22年1月に当院を基地病院として開始され、予想を上回る出動件数で順調に運航稼働しています。平成23年度の出動件数は、前年度の1.5倍以上となる見込みで、救急現場での速やかな救命措置および医療機関への迅速な搬送により、救命率の向上や後遺症の軽減に繋がるなど、栃木県の救急医療に大いに貢献しています。

なお、平成23年3月に北関東3県(栃木、群馬、茨城)での広域連携協定が締結され、準備体制が整った7月より3県によるドクターヘリの相互応援要請が始まり、より効率的な運航が可能となりました。

平成24年度予算では、ドクターヘリ運航業務委

託料1億89百万円、ヘリポート保守料2百万円及びヘリポート修繕費3百万円の必要経費を計上しました。

なお、県からのドクターヘリ運営費補助金2億円も併せて計上しています。

3) 越谷病院関連

(1)救命救急センターの機器整備

救命救急医療機器の整備費用(3年計画の3年目:総額3億円)として、平成23年度に引き続き1億円を計上しました。

(2)放射線機器の整備

放射線機器の老朽化に伴い、整備費用として、1億円を計上しました。

(3)オーダーリングシステムの更新

オーダーリングシステムの充実・更新を目的として、放射線画像管理システムPACS更新費2億70百万円(リース契約)及び医事会計システム更新費1億94百万円(リース契約)を含め総額5億35百万円、平成24年度支払額1億6百万円を計上しました。

(4)創立40周年記念事業

本学40周年記念事業の一環として、越谷駅東口【グローリオ越谷ステーションタワー4階】に腎・予防医学センター(透析部門・人間ドック部門)を開設するための予算を計上しました。

予算内訳として、フロア購入に5億10百万円(内、1億2百万円は平成23年度支払済)、設計・監理料として12百万円(内、10百万円は平成23年度支払済)、開設工事費として3億円、医療機器の購入費として4億90百万円を計上しました。

4) 日光医療センター関連

(1)地域医療の提供と標準化・透明化された医療の推進

地域社会の信頼に応えうる基幹病院として、現、診療体制の維持・強化に努めます。

また、標準化・透明化された医療を推進し、医療の質を高めるとともにコストパフォーマンスの高い運営を行うため、7対1看護体制を維持しつつ、DPC制度に配慮した在院日数の短縮と病床稼働率の向上に努めます。よって、平成24年度の患者計画は、外来が年間平均で1日350名、入院が年間病床稼働率86.0%の171名を目標としています。

(2)経営の効率化・合理化

効率的な病院運営を推進するために導入した臨床検査検体業務及び、自前での物流システムや医薬品在庫管理システムの導入により、引き続き経費の削減に努め、収支差額のバランスを図ります。

なお、医療収入に対する経費率は29.5%を目標としています。

(3)画像診断部門システムの充実

画像診断業務の効率化、省力化、医療の質向上及びフィルムレス化の推進等を目的に画像システム(PACS・RIS)を更新する費用として総額85百万円(リース契約)、平成24年度支払額17百万円を計上しました。

(4)創立40周年記念事業

40周年記念事業における本センターの事業計画には、院内環境整備(会議室を含めた本館6階フロアの再整備等)に係る費用として、総額で2億円を計上しました。

5) 附属看護専門学校関連

(1)国試対策

附属看護専門学校では、学生を看護師国家試験に合格させることが重要であり、合格率により、受験生が当校を選択する指針となっていることから、全教員協力の下、国家試験対策に取り組んでいます。平成24年度予算では、前年度に引き続き、模擬試験の受験、夏期・冬期の講習及び教員セミナー等の実施経費を計上しています。

(2)教室環境の整備

附属看護専門学校では、開設後38年が経過し、建物内の老朽化が進み、リフォームを年次計画で実施しています。平成24年度も継続して環境の整備をすべく、更新工事に1百万円を計上しました。

(3)教育機器の整備

附属看護専門学校では、臨床現場の最前線で働く「臨床看護実践力の高い看護師」の育成を目指しています。そのためには、学内演習を充実させ臨床実践能力の強化を図る必要がある為、前年度に引き続きシミュレーションモデルに2百万円を計上しました。

事業計画概要

(単位:百万円)

事業名	事業内容	24年度予算
(医科大学)		
1. 教学関係		
【医学部】		
1) 全国共用試験	1) CBT: コンピューターによる医学知識試験の実施 OSCE: 「医療面接」「頭頸部」「胸部」等6つのステーションでの模擬患者を相手とする実技試験の実施(ともにH17年より実施)	4.6 0.8
2) 早期医学・地域医療体験	2) 第1学年対象「コミュニティヘルスインターンシップI」、選択科目「地域包括医療実習」の開設。本学附属病院や学外の福祉施設等での体験学習の実施	1.8
3) 学生の海外研修	3) 学内試験選抜の学生の海外大学病院における約2週間の見学実習の実施[実習先: カリフォルニア大学サンディエゴ校(アメリカ)、シティー・オブ・ホープ(アメリカ)、ミュンスター大学(ドイツ)、国立フィリピン大学(フィリピン)](H13年より実施)	10.0
4) 医師国家試験対策合宿	4) 卒業試験・医師国家試験の合格に向けて、約1週間の短期集中合宿を実施(H12年より実施)	3.0
5) 国際交流等の拡充・充実	5) 国際交流の拡充や支援、海外大学との提携等の検討、海外視察の実施	5.0
【看護学部】		
1) 領域別臨床看護学実習	1) 小児・母性・成人・老年・精神・地域の各領域における実習の実施	1.8
2) ふれあい看護学実習Ⅰ・Ⅱ	2) 看護の役割等の習得や疾病障害を持つ人々の心身の状況と生活等の学習のため学外実習を実施	1.4
3) 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ	3) 病院において、患者の心理状態や良好な人間関係の構築等の学習及び入院患者の生活環境の理解や看護援助の必要性・重要性を体験学習	0.5
4) 地域看護学実習Ⅱ	4) 企業の健康管理、学校保健、産業保健活動の実践を環境調整・安全管理の視点から指導保健師と共に地域活動を実践	0.6
5) 国家試験対策	5) 国家試験対策コーナーの設置等、国家試験に向けた受験環境を整備・構築(H22年より実施)	3.5
6) 学生の海外研修	6) 海外の医療、看護業務の学習及び国際感覚を習得するため海外にて1週間程度の実習の実施	1.5
2. 施設・設備関係		
1) 教職員・学生寮新築	1) 教職員・学生寮の建設	2,413.6
2) 教育医療棟(仮称)建設 ＜創立40周年記念事業＞	2) 教育医療棟(仮称)の建設、新築基礎部分に係る汚水排水・雨水排水・消防系他の配管移設工事	2,120.0
3) 三郷市看護専門学校建設	3) 埼玉県三郷市へ看護専門学校建設	300.0
4) 駐車場整備工事	4) グラウンド北側駐車場Eブロック整備工事他	200.0
5) 各大学棟用途変更による改修工事	5) 教室・研究室の改修工事	140.0
6) 学生食堂棟トイレ改修工事	6) 衛生設備・室内改修工事	80.0
7) 教育研究・実習用機器備品	7) 教育研究・実習用機器備品の整備充実	461.6
8) 図書	8) 教育研究用図書の整備充実	43.8
3. 管理運営関係		
1) 寄付募集及び校歌作成 ＜創立40周年記念事業＞	1) 寄付募集及び趣意書作成、寄付金管理システム導入、校歌作成他	58.3
2) 図書館リフォーム	2) 個人学習用機の導入	5.0
3) 大学院看護学研究科博士課程開設準備	3) 大学院看護学研究科博士課程開設に向けた準備・検討	5.0
4) 教員業績システムの導入	4) 教員の業績をホームページ上で公開	4.1
5) 三郷市看護専門学校開設準備	5) 埼玉県三郷市へ看護専門学校開設に向けた準備・検討	3.0
(大学病院)		
1. 医療活動関係		
1) PETセンター	1) PET(陽電子放射断層撮影装置)によるガンの早期発見、詳細な部位の特定	413.0
2) 総合医療情報システム	2) 電子カルテシステム、オーダーリングシステム、PACSシステムの維持管理	293.4
3) 栃木県ドクターヘリ事業	3) ドクターヘリ運行業務の委託	193.9
4) 診療報酬改定システム変更	4) 診療報酬改定に伴う医事システム及び電子カルテ他システムの変更	10.0
2. 施設・設備関係		
1) 新館およびエネルギー棟設備更新工事(2/3期)	1) 新館およびエネルギー棟の設備更新工事	300.0
2) 用途変更による改修工事	2) 室内改修工事	100.0
3) 無停電装置更新工事	3) 病棟主電気室制御・非常照明用蓄電池更新工事	94.5
4) RI棟一次空調機更新工事(2/2期)	4) 空調機の更新工事	50.0
5) エネルギーセンター設備更新工事(2/6期)	5) 空調設備の更新工事	50.0
6) 電子カルテシステム更新	6) 電子カルテシステムの更新	1,600.0
7) 医療設備機器整備	7) 大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備	600.0
8) 放射線部門システム(RIS)更新	8) 放射線部門システム(RIS)の更新	210.0
9) 臨床研修機器整備	9) 臨床研修用機器、OA機器の購入	50.0
(越谷病院)		
1. 医療活動関係		
1) オーダーリングシステム	1) 新規オーダーリングシステムの構築、各種システム更新	519.3
2) 腎・予防医学センター開設	2) 腎・予防医学センター関連備品の購入他	52.8
3) 外来リフォーム	3) 待合イス、診療科用什器類の購入他	32.0
4) SPD業務委託導入	4) 在庫管理、消費データ管理等の外部委託	13.9

事業名	事業内容	24年度予算
2.施設・設備関係		
1) 腎・予防医学センター開設 ＜創立40周年記念事業含む＞	1) 腎・予防医学センター開設(フローア購入、設計・監理料、工事代)	710.5
2) 放射線機器移設に伴う改修工事	2) 機器移設に伴う改修工事	100.0
3) 空調機・換気機等更新	3) 経年劣化による更新工事	90.0
4) 給排水配管更新	4) 経年劣化による更新工事	90.0
5) 外来改修工事	5) 泌尿器科外来改修工事	90.0
6) 医療設備機器整備	6) 大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備(救急医療設備の整備100.0、放射線機器の整備100.0を含む)	560.0
7) オーダリングシステム更新	7) オーダリングシステムのリース機器導入及び更新	535.1
8) 腎・予防医学センター機器整備	8) 医療機器の整備	490.0
(日光医療センター)		
1.医療活動関係		
1) 業務外注化	1) 施設管理、検体検査、医事業務、給食、情報処理等の外部委託	261.1
2) 医療情報システム構築	2) 電子カルテシステム及び各部門システムの維持管理	15.2
3) 診療報酬改定システム変更	3) 診療報酬改定に伴うシステムの変更	9.5
2.施設・設備関係		
1) 本館6階フロア整備 ＜創立40周年記念事業＞	1) 会議室を含めた本館6階フロアの再整備等	200.0
2) 電気室改修工事(3/3期)	2) 経年劣化した電気室の整備	110.0
3) ナースコール更新工事	3) 経年劣化による4病棟のナースコール更新	45.0
4) 医療設備機器整備	4) 大型医療設備、経年劣化による代替機器、最新医療機器の整備	100.0
5) 画像システム(RIS・PACS)更新	5) 画像システム(RIS・PACS)の更新	85.1
6) 輸液ポンプ・シリンジポンプ更新	6) リース期間満了による輸液ポンプ・シリンジポンプの更新	30.0
7) 栄養課厨房整備	7) 経年劣化による厨房機器の購入	5.0
(看護専門学校)		
1.教学関係		
1) 体験学習	1) 看護に必要な技術を習得するため、技術演習や小グループによる体験学習を実施	2.7
2) 専任教員の研修・研究	2) 看護教育内容、方法の改善や教員の質の向上を図るため、学外の研修会や研究会への参加	1.1
3) 基礎看護学実習	3) 看護に必要な基礎知識、技術、態度を看護実践の場を通して段階的に習得を図るための実習を実施	1.1
2.施設・設備関係		
1) チャイム工事	1) 経年劣化による現有機器の更新	1.1
2) シミュレーションモデル整備	2) 教育研究・実習用機器備品の整備充実	1.6

消費収支予算の概要

2012(平成24)年度 消費収支予算書 (平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(単位：百万円)

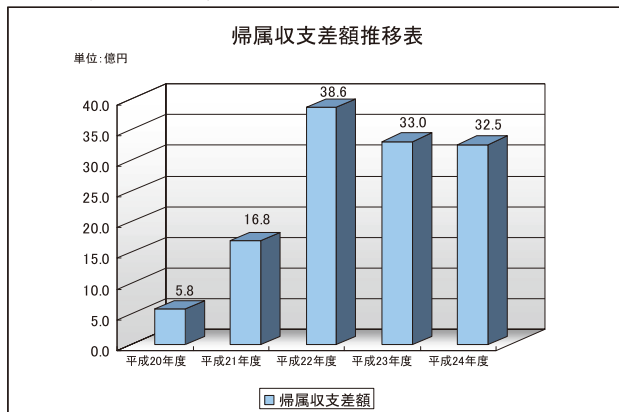
支出の部					収入の部				
科	目	平成24年度 予算額	平成23年度 決算見込額	増 減	科	目	平成24年度 予算額	平成23年度 決算見込額	増 減
人件費		29,473	28,282	1,191	学生生徒等納付金		5,021	4,960	61
教育研究経費		39,535	38,326	1,209	手数料		188	186	2
(医療経費)		(25,452)	(24,739)	(713)	寄付金		1,448	1,216	232
(一般経費)		(9,779)	(9,596)	(183)	補助金		2,947	2,786	161
(減価償却費)		(4,304)	(3,991)	(313)	(国庫補助金)		(2,365)	(2,212)	(153)
管理経費		2,319	2,283	36	(地方公共団体補助金)		(582)	(574)	(8)
(一般経費)		(1,988)	(1,963)	(25)	資産運用収入		484	433	51
(減価償却費)		(331)	(320)	(11)	資産売却差額		0	0	0
借入金等利息		9	17	△8	事業収入		350	353	△3
資産処分差額		130	79	51	医療収入		64,538	62,632	1,906
徴収不能引当金繰入額		82	180	△98	雑収入		73	108	△35
徴収不能額		0	3	△3	法人負担金収入		27	29	△2
予備費		40	0	40	帰属収入合計(A)		75,076	72,703	2,373
法人負担金		238	236	2	基本金組入額(△)		△6,778	△3,402	△3,376
消費支出の部合計(B)		71,826	69,406	2,420	消費収入の部合計		68,298	69,301	△1,003
当年度消費支出超過額		△3,528	△105	△3,423					
帰属収支差額(A-B)		3,250	3,297	△47					

【解説】消費収支計算は、当該会計年度の消費収入と消費支出の内容とその均衡の状態を明らかにするためにを行います。帰属収入(負債とならない収入)から基本金組入額(施設設備などの取得に充てる額)を控除して、消費支出に充てることのできる消費収入(帰属収入-基本金組入額)を算出し、この消費収入と消費支出を対比して均衡の状態をみます。企業会計の損益計算書に似た性格のもので、具体的には、人件費、消耗品費、光熱水費、修繕費などの経常費用をどのような収入で賄っているかみるためのものです。

帰属収入は、前年度見込比3.3%、23億73百万円増となる750億76百万円を計上しました。この主な要因は、創立40周年記念事業に係る寄付金の増収及び3病院の医療収入の増収によるものです。特に医療収入に関しては、3病院とも患者数、患者1人1日当たり単価、病床稼働率のアップ等、積極的な取り組みにより増収としました。

一方、消費支出は前年度見込比35%、24億200百万円増となる718億26百万円を計上しました。この主な要因は、人件費（定期昇給、看護師確保対策、研修医月額改定分）及び医療収入増加に伴う医療経費等の増加です。

その結果、帰属収支差額は、前年度見込比47百万円減となるが32億50百万円の収入超過（黒字）を確保できました。なお、帰属収支差額比率は4.33%です。また、内部留保は80億15百万円を確保できる見込みです。



1.消費収入

○学生生徒等納付金

医学部新入生118名、看護学部新入生100名：3次編入生7名、大学院看護学研究科新入生10名、助産学専攻科新入生10名を見込み授業料その他を算出し、前年度見込比1.2%、61百万円増の50億21百万円を計上しました。

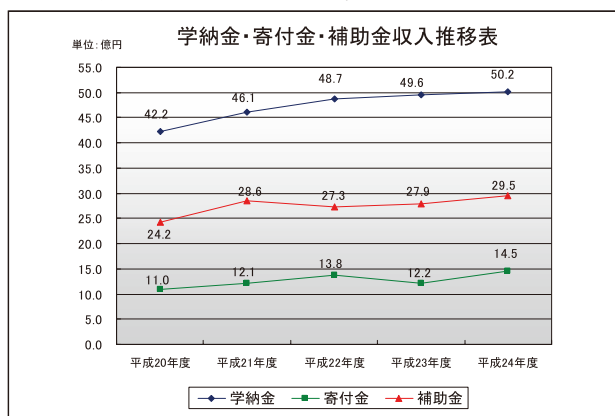
(うち看護専門学校分1億48百万円)

○寄付金

厳しい社会経済情勢を反映し今後とも増収は見込めない状況ですが、受配者指定寄付制度や免税措置等の寄付者へのメリットをアピールし、積極的に寄付金獲得活動に取り組みます。また、昨年度に引続き地域医療再生計画に基づく臨時特別交付金（寄付金講座設置事業）として1億38百万円を見込んでいます。さらに、創立40周年記念事業に係る寄付金2億円を計上し、総額で前年度見込比19.1%、2億32百万円増の14億48百万円を計上しました。

○補助金

経常費補助金は、調整係数見直しや補助圧縮率等を考慮して、前年度見込比74百万円増の19億55百万円を計上しました。また、その他主な補助金として、文部科学省施設設備関係補助金1億5百万円、大学病院のとちぎ子ども医療センター施設整備事業補助金78百万円、総合周産期母子医療センター運営費等補助金1億円、ドクターヘリ運営費補助金2億円、越谷病院の救命救急センター運営費補助金59百万円等を計上しました。総額で前年度見込比5.8%、1億61百万円増の29億47百万円を計上しました。



○医療収入

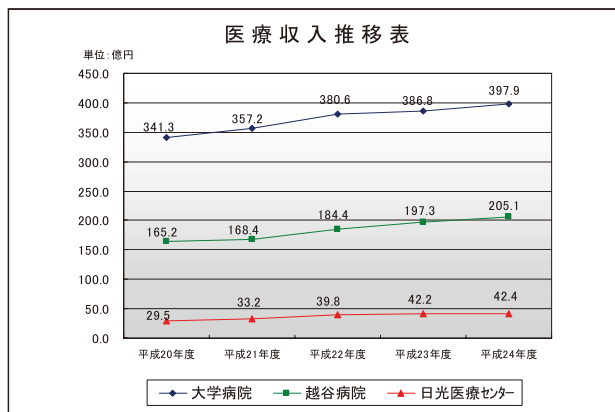
大学病院では、7対1看護体制を継続しつつ、DPCに配慮した在院日数と高水準な病床稼働率を維持することにより今年度を上回る予算を計上しました。また、越谷病院及び日光医療センターにおいても、入院収入・外来収入ともに患者1人1日当たり単価、病床稼働率のアップ等により増収予算を計上しました。

入院収入：前年度比3.0%、12億35百万円増の419億67百万円

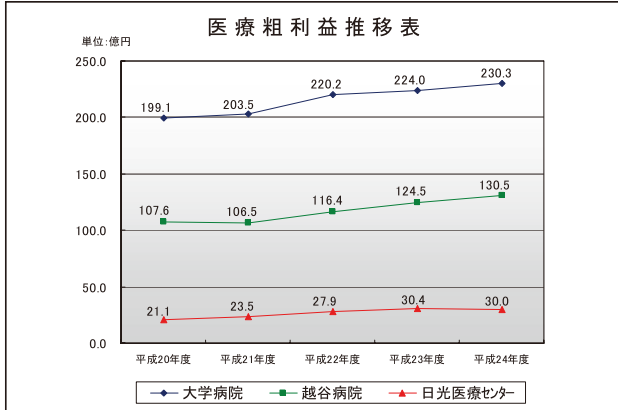
外来収入：前年度比2.8%、5億51百万円増の201億57百万円

室料差額：前年度比△0.6%、12百万円減の19億34百万円

総 額：前年度比3.0%、19億6百万円増の645億38百万円



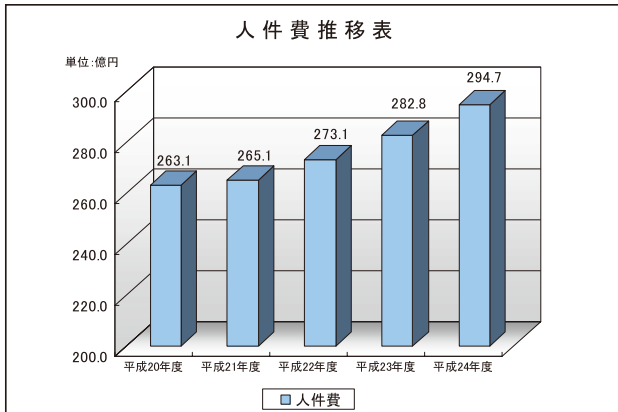
また、病院の医療活動から直接得られる利益である医療粗利益(医療収入－医療経費)については、3病院合計で前年度見込比0.1%、11億93百万円増の390億86百万円となりました。



2.消費支出

○人件費

教員人件費は、前年度見込比1億81百万円増の80億13百万円、職員人件費は、前年度見込比8億49百万円増の198億8百万円、退職金は、前年度見込比1億69百万円減の7億80百万円、退職給与引当金繰入額は、前年度見込比1億62百万円増の16億52百万円を計上しました。

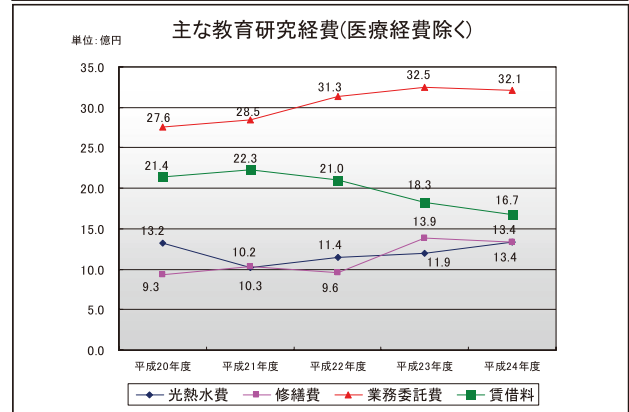
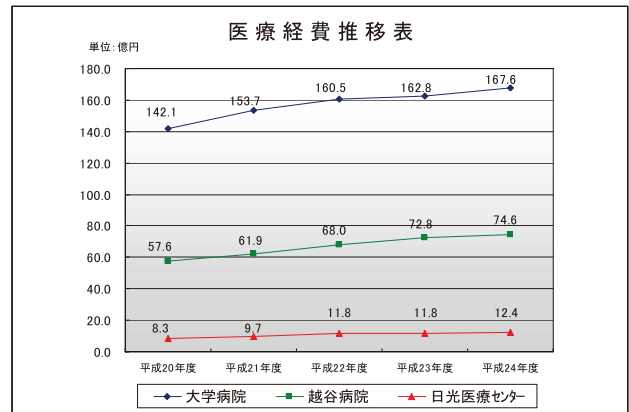


○教育研究経費

教育研究経費は、前年度見込比3.2%、12億9百万円増の395億35百万円を計上しました。

このうち医療経費は、総額で前年度見込比2.9%、7億13百万円増の254億52百万円を計上しました。大学病院では、前年度見込比3.0%、4億82百万円増の167億58百万円(医療経費率43.8%)、越谷病院では、前年度見込比2.4%、1億78百万円増の74億59百万円(医療経費率37.0%)、日光医療センターでは、前年度見込比4.5%、53百万円増の12億35百万円(医療経費率29.5%)を計上しました。

一般経費は、前年度見込比1.9%、1億83百万円増の97億79百万円を計上しました。



○管理経費

管理経費は、前年度見込比1.6%、36百万円増の23億19百万円を計上しました。

○法人負担金

法人負担金は、前年度見込比0.8%、2百万円増の2億38百万円を計上しました。

○徴収不能引当金繰入額

徴収不能引当金繰入額は、前年度見込比△54.4%、98百万円減の82百万円を計上しました。

○借入金等利息

借入金等利息は、長期借入金の約定償還が進むことによる負担減により、前年度見込比△47.1%、8百万円減の9百万円を計上しました。

■ 資金収支予算の概要

2012(平成24)年度 資金収支予算書 (平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(単位：百万円)

支出の部				収入の部							
科	目	平成24年度 予算額	平成23年度 決算見込額	増	減	科	目	平成24年度 予算額	平成23年度 決算見込額	増	減
人件費支出		28,601	27,404		1,197	学生生徒等納付金収入		5,021	4,960		61
教育研究経費支出		35,231	34,335		896	手数料収入		188	186		2
管理経費支出		1,988	1,947		41	寄付金収入		1,416	1,184		232
借入金等利息支出		9	17		△ 8	補助金収入		2,947	2,786		161
借入金等返済支出		512	512		0	(国庫補助金)		(2,365)	(2,212)		(153)
施設関係支出		7,399	2,278		5,121	(地方公共団体補助金)		(582)	(574)		(8)
設備関係支出		4,874	2,570		2,304	資産運用収入		484	433		51
資産運用支出		10,000	7,000		3,000	資産売却収入		0	0		0
その他の支出		10,228	9,310		918	事業収入		350	353		△ 3
法人負担金		238	236		2	医療収入		64,538	62,632		1,906
予備費		40	0		40	雑収入		73	108		△ 35
資金支出調整勘定		△ 11,405	△ 9,201		△ 2,204	借入金等収入		2,000	0		2,000
						前受金収入		1,439	1,439		0
						その他の収入		18,026	15,817		2,209
						法人負担金収入		27	29		△ 2
						資金収入調整勘定		△ 12,533	△ 12,093		△ 440
次年度繰越支払資金		6,597	10,336		△ 3,739	前年度繰越支払資金		10,336	8,910		1,426
支出の部合計		94,312	86,744		7,568	収入の部合計		94,312	86,744		7,568

【解説】 資金収支計算は、当該会計年度の教育研究診療活動に対応するすべての収入・支出の内容並びに支払資金の収入・支出の顛末を明らかにするために行うものです。具体的には、組織の活動に伴ってどれだけお金が入ってきて、どれだけ出ていったか、その結果、お金がどれだけ残ったかを明らかにするものです。このため消費収支計算書に計上されていない「借入金等収入」「前受金収入」「借入金等返済支出」「施設関係支出」「設備関係支出」及び「資産運用支出」等が資金の収入・支出を伴うため計上されます。一方、消費収支計算書に計上されている「基本金組入額」「減価償却費」等は資金を伴わないため資金収支には含まれていません。

資金収支予算は平成24年度の収入及び支出に関わるすべての資金を計上しています。以下、消費収支予算と重複するものを除いて主な項目について説明します。

1. 資金収入

○借入金等収入

創立40周年記念事業に伴う借入金20億円を計上しました。

○前受金収入

前受金収入は、前年度見込と同額の14億39百万円を計上しました。

○その他の収入

その他の収入は、減価償却引当特定資産からの繰入収入が19億円増加したこと等により、前年度見込比14.0%、22億9百万円増の180億26百万円を計上しました。

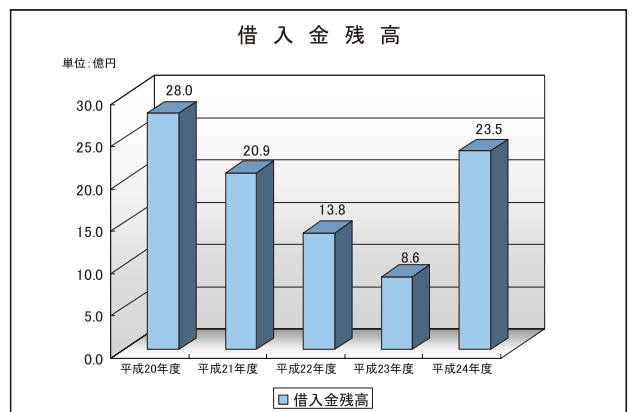
○前年度繰越支払資金

前年度繰越支払資金は、前年度見込比16.0%、14億26百万円増の103億36百万円を計上しました。

2. 資金支出

○借入金返済支出

借入金返済支出は、市中金融機関からの長期借入金の約定償還5億12百万円を計上しました。なお、平成24年度末の借入金残高は、創立40周年記念事業に伴う借入金20億円を含めて23億52百万円となる見込みです。

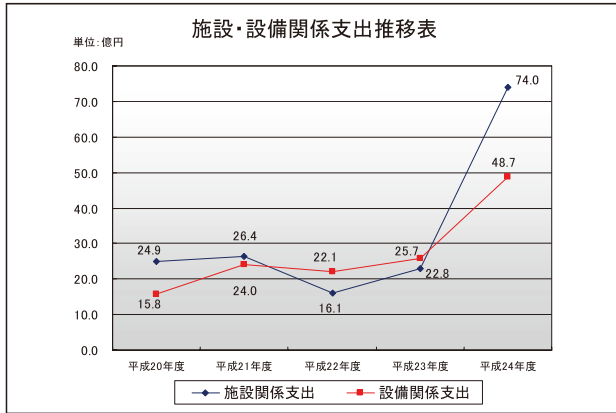


○施設関係支出

施設関係支出は、創立40周年記念事業にともなう教育・医療棟（仮称）の建設、教職員・学生寮新築等、前年度見込比224.8%、51億21百万円増の73億99百万円を計上しました。

○設備関係支出

設備関係支出は、前年度見込比89.6%、23億4百万円増の48億74百万円を計上しました。



○資産運用支出

資産運用支出は、将来の大学・病院の建替等将来の備えとして、減価償却引当特定資産を基本計画のとおり30億円積み立てる計画とし、前年度見

以上、平成24年度予算の概要を説明しました。

予算執行に当たっては、これまで以上に教職員一人一人が当事者意識を持って経費節減に取り組むとともに、実施する内容の必要性、緊急性を再度十分に検証していただくようお願いします。

なお、予算内容について、ご不明な点、ご質問等がありましたら、大学事務局経理課までご照会ください。

込比42.9%、30億円増の100億円を計上しました。

○その他の支出・資金支出調整勘定

その他の支出は、102億28百万円、資金支出調整勘定は、114億5百万円を計上しました。

○次年度繰越支払資金

次年度繰越支払資金（年度末現預金）は、65億97百万円となる見込みです。

